

筑波学院大

市民投票で大作選び

空間デザインコンペ

つくばクレオスクエア1階の交流広場プラザ・パフォーマンスギャラリー（つくば市吾妻）で、筑波学院大（同）の学生による空間デザインコンペティションが行われている。3年生23人が考えた作品をパネルで紹介し、25日まで一般投票を受け付ける。グランプリ作品は期間限定で実際に展示される。

同大と、ギャラリー隣接駐車場を管理するつくば都市交通センターが企画。デザイン教育の一環で、メディアデザインコースの3年生が参加した。同ギャラリーの空間はベンチで休憩でき、市民の作品展示などに利用できる。



同大学生制作のタペストリーが、季節に合わせて継続的に飾られている。作品パネルは、壁に

飾るタペストリーのイメージやポイントなどを説明している。夏の涼しさや日本の夏らしさ、リゾートなど、そ

れぞれのテーマが並ぶ。グリーンカーテンや風鈴などを配置するアイデアもある。

一般投票は25日午後6時まで、23作品から1人3点を選び投票する。審査員の協議を経てグランプリを決める。7月14日に同ギャラリーで表彰式があり、同日から8月末までグランプリ作品が会場を彩る。

同大のメディアデザインコースは、同交通センターの管理する立体駐車場のサイン計画やグルメ案内冊子に協力している。

（橋本ひとみ）

投票受け付け中の筑波学院大生の空間デザイン作品。つくば市吾妻、つくばクレオスクエア1階プラザ・パフォーマンスギャラリー